

令和6年度全国学力・学習状況調査より

～ 児童生徒の学力や学習習慣・生活習慣等に関する 結果の分析と改善に向けた今後の取組について（小学校）～

福島市教育委員会

1. はじめに

福島市教育委員会では、令和6年度全国学力・学習状況調査を市教育施策に係る検証と改善に役立たせるとともに、その結果と改善策について広く市民の皆様へお伝えし、保護者や地域の方々のご理解とご協力を得ながら、学力の向上を一層図っていきたいと考えております。そこで、本市全体の教科の平均正答率とともに、児童生徒の学力や学習習慣・生活習慣に関する課題や改善に向けた今後の取組をまとめましたので、ご覧いただければ幸いです。

なお、本市では各校の学力調査の数値結果等について、序列化や過度の競争につながるおそれがあることから、個々の学校名を明らかにした公表は行っておりません。

2. 調査の概要

(1) 調査日 令和6年4月18日（木）

(2) 調査対象

市立小学校43校の第6学年の全児童、市立中学校19校の第3学年の全生徒

(3) 調査内容

- 小学校第6学年 国語、算数
- 中学校第3学年 国語、数学
- 生活習慣や学習環境等の質問調査

3. 教科に関する調査の結果（上段：平均正答率、下段：平均正答数）

(1) 小学校第6学年（当日実施人数：1,747人）

	福島市	福島県	全国(公立)
国語	66%	66%	67.7%
	9.3問/14問	9.3問/14問	9.5問/14問
算数	61%	60%	63.4%
	9.8問/16問	9.5問/16問	10.1問/16問

(2) 中学校第3学年（当日実施人数：1,862人）

	福島市	福島県	全国(公立)
国語	60% 9.0問/15問	57% 8.6問/15問	58.1% 8.7問/15問
数学	50% 8.0問/16問	48% 7.7問/16問	52.5% 8.4問/16問

4. 今回の調査結果からわかる本市の特徴（○成果となる主な内容 ▲課題となる主な内容）

(1) 小学校第6学年

国 語	算 数
<p>○ 文章の構成を理解し、主語と述語の関係を捉えること。</p> <p>○ 読書を通して、新たな言葉や考え方を見つけること。</p> <p>▲ 自分の考えを伝えるときに、相手や目的にあわせて資料を活用すること。</p> <p>▲ 登場人物の相互関係や心情などについて複数の描写を結び付けて捉えること。</p>	<p>○ 円周の長さ、直径の長さ、円周率の関係について理解すること。</p> <p>○ 円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ること。</p> <p>▲ 問題場面の数量の関係を捉え、式に表すこと。</p> <p>▲ わる数が小数である場合のわり算の計算をすること。</p>

(2) 中学校第3学年

国 語	数 学
<p>○ 文章と図を結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること。</p> <p>○ 短歌の内容について、描写を基に捉えること。</p> <p>▲ 資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すこと。</p> <p>▲ 話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめること。</p>	<p>○ 図形が回転移動した時、回転前と回転後の図形で対応する辺や頂点を選ぶこと。</p> <p>○ 一次関数のグラフにおける傾きや交点の意味を、事象に即して解釈すること。</p> <p>▲ 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明すること。</p> <p>▲ 複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較すること。</p>

福島市の子どもたちの学力を一層伸ばすために

小学校6年国語

身に付いている力

- ① 文章の構成を理解し、主語と述語の関係を捉える力
- ② 読書を通して、新たな言葉や考え方を見つける力

育てたい力と手立て

- ① 自分の考えを伝えるときに、相手や目的にあわせて資料を活用する力

→ 自分の考えが伝わるように表現を工夫することについて、目的や意図に応じて、情報を収集、選択して適切な資料を用意する学習過程を大切にします。また、聞き手の興味・関心を予想し、資料の提示方法や話し方を検討する学習を大切に、他教科等においても応用できるようにしていきます。

- ② 登場人物の相互関係や心情などについて、複数の描写を結び付けて捉える力

→ 物事の様子や場面、行動や心情について描かれている文から登場人物の性格や関係性を想像する学習を大切にします。また、登場人物の心情を捉える学習では、特に、行動や会話、情景などを通して暗示的に表現されている文を見つけ、自分の考えの根拠とすることを促していきます。

小学校6年算数

身に付いている力

- ① 立体図形について、図形を構成する要素やそれらの位置関係に着目し、図形の構成の仕方や図形の性質について考察する力
- ② 日常生活の問題を解決するために、目的に応じて収集したデータを分類整理し、表やグラフを用いて、身の回りの事象について考察する力

育てたい力と手立て

- ① 示された場面を解釈し、数量の関係を捉え、正しく式に表す力

→ 数量の関係がつかみにくい問題を解決する際に、問題の文脈に沿って図などに表すことを通して数量の関係を捉え、正しく式に表す学習を大切にしていきます。

- ② わる数が小数のわり算について、正しく計算する力

→ わり算の性質をもとにして、小数を整数に置き換えて計算するとともに、計算の結果を見積もり、計算の結果と大きく異なっていないかを振り返る習慣を身に付けさせるような学習を大切にしていきます。

～小学校・児童質問調査の結果から～

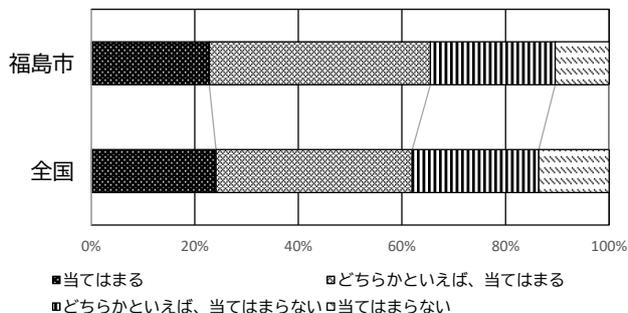
本市の子どもたちのよい点

○ 「国語の勉強が好き」

『国語の勉強は好きですか』に対し、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の合計の割合は65.5%であり、全国平均を3.5ポイント上回っています。

また、『今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように回答しましたか』に対して、「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」が、83.0%で全国平均を3.9ポイント上回っており、最後まで粘り強く取り組む姿が見られました。

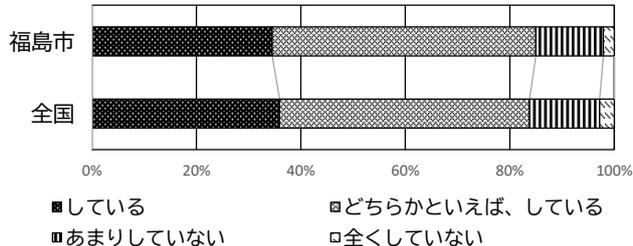
国語の勉強は好きですか



○ 「学習したことを普段の生活に役立てることができる」

『授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか』に対し、「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童の合計の割合は85.0%であり、全国平均を1.3ポイント上回っています。今後も子どもたち一人一人のよさを見取り称賛しながら、前時までの学習内容や学習状況を生かした学びがいのある授業づくりや授業内容と関連した家庭学習の在り方について充実を図っていきます。

授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか

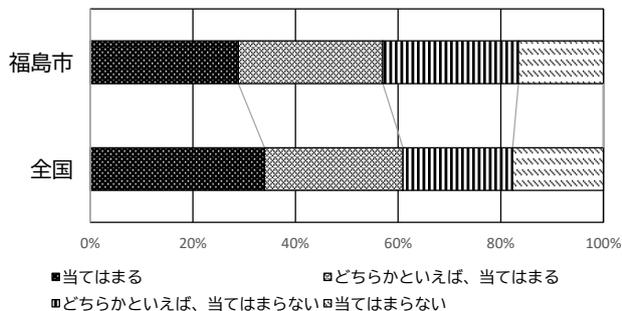


本市の子どもたちの課題

○ 「算数の勉強が苦手」

『算数の勉強は好きですか』に対し、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の合計の割合は56.9%であり、全国平均を4.1ポイント下回っています。また、『算数の授業の内容はよく分かりますか』『算数の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか』それぞれに対し、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」が順に78.7%（全国比+3.4ポイント）、60.0%（全国比+3.6ポイント）であり、全国平均を下回りました。算数の苦手意識を克服するためにも、「わかる・できる」を実感させ、学習内容の定着を目指す授業のさらなる充実と改善を図っていきます。

算数の勉強は好きですか



本市の子どもたちの自己肯定感

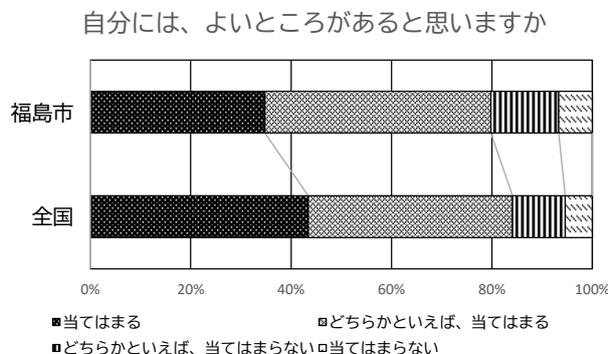
○ 「自分の能力や価値を認め、自信をもつためには」

『自分には、よいところがあると思いますか』に対し、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の合計の割合は79.8%であり、全国平均を4.3ポイント下回っています。

また、本市の児童は『自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか』に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合は72.4%で全国平均を3.4ポイント下回っており、『(タブレット等ICT機器を活用することについて)自分の考えや意見をわかりやすく伝えることができる』に対して「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童は、74.2%と全国平均を5.0ポイント下回っています。

授業においては、自分の考えを伝えたり、友達の考えと比べたり共有したりする経験を積むことにより、自分の能力や価値を認め、自信をもつことにつながります。

今後も、児童の自己肯定感を高める日々の授業の充実に向けてまいりますので、ご家庭でも、お子さんの頑張りを認め、大いにほめて励ましていただき、学校と家庭の連携にご協力をお願いいたします。



学力向上へ向けた福島市教育委員会の取組

○ 日々の授業の充実に向けて

- ・ 年間を通して各種教員研修を行うとともに、学校訪問・授業研究会を通して、よりよい授業の実現に向け、個々の教員の指導力向上を図ります。
- ・ 全ての教科を対象に指導主事を派遣し、教員の授業力向上に努めます。
- ・ 各教科等の特質に応じて、1人1台タブレット端末を効果的に活用することで、学習活動の充実を図り、児童の学習活動を支援します。加えて、家庭においても自分のペースで積極的に活用できるように、タブレット端末の持ち帰りを推奨していきます。
- ・ 各中学校区の学校の管理職や学力向上担当者と共に、小中の共通の課題や学力向上策を協議し、国語や算数（数学）をはじめとして、各教科の学力向上を図ります。
- ・ ALT（外国語指導助手）やEAA（外国語活動支援員）を配置し、英語のリズムや音声に親しませたり、コミュニケーションの楽しさを味わわせたりすることを通して、外国語活動（3・4年生）、外国語科（5・6年生）の授業を充実させ、中学校との円滑な接続を図ります。

○ 家庭学習の充実に向けて

児童質問「学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間勉強しますか」に対し「1時間以上」と回答した本市の児童は62.6%で、全国（54.6%）を大きく上回っており、家庭学習の習慣や主体的に学習に取り組もうとする態度が育ってきていると言えます。一方で、「2時間以上」と回答した本市の児童は14.5%と、全国（23.5%）を下回っています。児童がさらに意欲的に粘り強く家庭学習に取り組むために、質的な向上はもとより、量的な充実を図っていきます。そのために本市で作成している、「家庭学習のスタンダード（福島市版）」の各校での活用を奨励しています。今後も「学校での学習」→「家庭での復習・予習」→「学校での学習」というサイクルを確立することで学習内容の確実な定着を図るとともに、自らの学びをマネジメントする力の育成に努めていきます。

保護者の皆様へ

今回の「全国学力・学習状況調査」の結果から明らかになった課題の解決に向け、福島市教育委員会、学校が一体となって、引き続き、授業改善等の取組を推進してまいります。

今年度も本調査の結果から、本市の児童が家庭学習の習慣を身に付け、主体的に学習に取り組んでいることがうかがわれました。保護者の皆様のご協力に感謝申し上げます。

学校と家庭がともに手を携え一致協力することで、お子さんの学力向上に向け最大限の効果が発揮されます。今後におきましても、家庭での学習習慣の確立に向け、以下の点についてご協力をお願いいたします。

- 十分な睡眠時間の確保、「早寝、早起き、朝ご飯」、テレビやゲーム、スマートフォンの利用時間や利用方法等についての話し合い（ルール等の決定）など、望ましい生活習慣の確立が大切です。
- お子さんが「決まった時刻に決まった場所で」落ち着いて学習できる環境を整えることが大切です。
- お子さんの話に耳を傾け、様々な話題で会話する機会を設けることで、相手の話を最後まで聞き、相手の考えを受け止めて、自分の考えをしっかりと伝えようとする態度が育まれます。
- お子さんが主体的に物事を考えたり、新しい考えを生み出したりするには、自分自身で決定する（自己決定）機会を作ることが大切です。
- お子さんの頑張りを大いにほめてあげてください。ご家族の温かい言葉や励ましが、新たな学びに向かう意欲につながります。